

広報 ふたば

～生活の舞台～ 第9回目 季節のディスプレイ ～七夕編～

前号に引き続き、今回は七夕を目前に控えた夏のディスプレイをご紹介します。

七夕といえば、五色の短冊に願い事を記入し竹に飾るという風習が一般的ですね。本物の笹竹を入手するのは困難なため、小さめの作り物の竹やタバストリー等を用い、その枝や周辺に、ご自身で字の書ける方はご自身で、そうでない方は職員が代筆するなどして、皆さん思い思いの願い事を短冊に託し、飾られています。

天の川によって隔てられた織姫（こと座のベガ）と彦星（わし座のアルタイル）が一年に一度だけ、会うことが許されているといわれる7月7日。私たちは、織姫と彦星の再会を願うとともに、入所者が1日でも長く、健康で、笑顔で過ごされることを願うばかりです。



入所者様の元気な姿と笑顔が、職員一同の喜びであり励みです。



入所者様に負けず、職員も頑張りました!!

ふたばよもやま話 (第四十一回)

～レンガ造りの水路橋～



北九州市小倉南区の城野駅から大分県日田市の日田駅を結ぶ路線が日田彦山線です。平成29年7月に発生した九州北部豪雨により添田駅以南では甚大な被害を受けました。官民で何度も繰り返し協議を重ねた結果、鉄道としての復旧を断念し、令和5年8月、添田駅より南はBRT※に転換される形で「復活」しました。なお、日田彦山線の名称は現在もそのまま継続されています。

日田彦山線の歴史は複雑で、大正4年、旧小倉鉄道が東小倉駅から香春・大任を経て添田駅まで開通したのが始まりですが、現在の小倉南区から香春町の間には金辺(きべ)峠という難所が控えており、長大トンネルや急坂でこの難所を克服した歴史があります。

さて、当時数々の難工事が行われたのですが、あまり知られていない歴史的建造物に、線路を跨ぐレンガ造りの跨線橋があります。これは明治30年頃、旧小倉鉄道が継承する前の旧金辺鉄道が、線路を通す際に、地域の重要な水路を断ち切ってしまうため跨線橋を通して水を流すように架けた橋とされています。水路(橋)の下には線路が、また水路の横は車が1台通れる程度の幅の道路となっています。水路は現在もなお、清冽な水が流れています。

※BRT… Bus Rapid Transit の略称。バス高速輸送システム。



上流側から見た水路と道路。この下にJR日田彦山線が通っています。江戸時代には、この道が城下町・小倉と田川方面を結ぶ街道でした。

下流側から見ると、その水量の多さが実感できます。列車の中からは見えない風景がここにはあります。



橋上から金辺トンネルが見えます。将来の複線化を見据えた幅広の構造で、明治30年の着工時には、複線トンネルとしては日本最長だったとされています。(現在まで単線にて運用)



6月 お誕生日おめでとうございます!!



今月の予定 (7月)

- 石橋胃腸内科医院 回診 (毎月曜日)
6日、13日、27日
- ますゆき皮膚科クリニック 回診
2日(木)
- 小倉南歯科医院 回診 (毎火・木曜日)
2日、7日、9日、14日、16日、21日、23日、28日、30日
- ビューティヘルパー (訪問理美容)
14日(火)
- 七夕
7日(火)

【編集雑記】▼月末の事を昔は「つごもり」と言い、また十二月三十一日の大晦日は「おつごもり」と言っていた。樋口一葉の短編小説『大つごもり』を連想される方も多いのではなからうか。年度末の勘定を題材にしたものだが、現在の様な電子決算など勿論無く、「盆暮れ勘定」(盆・年末にまとめて決済すること)が主流だった時代である▼つごもりの語源は「月が隠れる」(月隠り)が転化したもののように、現在の太陽暦以前、月の満ち欠けで日にちを数えていた頃、「月末は月が隠れて見えなくなる」ことかららしい。当時一年の折り返しである六月三十日も「大つごもり」で、現在の夏越祭りと関係が深いのもかもしれない▼間もなく盛夏を迎えるが、この時期忘れてはならないのが終戦記念日ではないだろうか。明治以来、国防の最前線として現在の北九州に陸軍が置かれ、軍都として発展してきた。森鷗外が軍医長として小倉に派遣されてきたのは有名な話である▼当苑がお世話になってきた大手町病院も広大な旧陸軍の敷地内にあり戦争関連の遺跡が多い。またインフラとして鉄道網が整備され、大手町付近や小倉駅周辺は石炭関係や軍関係の線路がまさに網の目の如く整備され、現在は遊歩道になっている所も多い▼先日所用で小倉南区北方を訪れた際、謎の遺跡に遭遇した。トンネル、防空壕、その他諸々の説があるが、手の込んだ造りからしたら明治・大正の頃に造られたと推察でき、防空壕説には疑問が残る。次回以降もやま話で紹介したいと思う▼遺跡は勿論であるが、戦争体験の生き証人である利用者様の話は、何物にも代えがたく貴重である。